令和５年４月２７日

今後の教育課程、学習指導、学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第４回）

天笠　茂

Ⅰ．持ち続ける問題意識（１）

⇒わが国社会は、社会の構成員を育てることにどれほど成功しているか。

⇒社会の構成員を育てることに学習指導要領改訂は、いかに貢献しているか。

Ⅱ．持ち続ける問題意識（２）その次を想定するということ

＊ＣｈａｔGPT の登場は、先の中央審議会答申　及び、そのもとで改訂をはかった学習指導要領の描いた２０３０年への展望が一層現実味をもったことを印象付けている。

⇒次の２０４０年への展望－ポストデジタル社会

・高齢化のピーク、少子化にともなう労働人口の決定的な不足

・科学技術の変革にともなう社会・経済の構造の変化

・多様化、格差への向きあい－ＩＣＴ・情報格差、マイノリティー、多様性への対応－

・孤立への向き合い

Ⅲ．持ち続ける問題意識（３）学校の教育課程及びシステムへの影響

⇒個別最適な学びと協働的な学びの実現

・学習者と授業者との距離の接近

・学校の時間の新たなる設計－授業時数・時間、一日、学期などの在り方－

・学習空間の新たな設計

・進級システムとして、学習組織・生活組織のとしての学年学級制の問い直し

・学級担任制・教科担任制の見直し

⇒デジタルからの教育課程へのインパクト

・これまでの体験学習の見直しと新たな体験学習の必要性

・情報にかかわる倫理・道徳の新たな構築

・芸術系教科の意義や位置づけ

・教科等構成について

⇒いつから始めるか（たとえば、プログラミング教育など）。

・幼稚園から高等学校まで教育内容のタテを見直す

⇒カリキュラム・マネジメントの重点化による学校経営の見直し

⇒学習指導要領改訂の担い手として、学校組織のイノベーションの推進者として、学習指導要領改訂における教職員の位置づけの転換や役割の見直しを通したマインドセット。

Ⅳ．持ち続ける問題意識（４）教育内容・方法・組織の見直しにおける条件整備について

＊学習指導要領を時代の変化などに応じて改訂しても、学校を取り巻くシステム、及び、学校の組織などが旧来の状態にとどまるというのが、これまでの姿であった。現行の学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの提起は、そのことを意識しての提起であったが、状況を転換するところにまでは至っていない。

⇒幼稚園、小学校、中学校、高等学校の組織原理、組織文化、教職員人事をはじめとする制度及びマネジメントの全体的見直しが必要である。

⇒そのためにも、改訂を進めるにあたって、それぞれの審議を別々に行うのではなく、相互に往還を図りながら同時に進行させていくことが求められる。内容・方法・」組織の見直しと条件整備、それに制度改編に関わる審議を同時に並行して成案を得ていく必要がある。